

ポスト団塊ジュニアのインターネット意識

—— パソコン保有者で7割、非保有者でも4人に1人が利用 ——

ウインドウズ95の登場により、パソコンとともに、急速に普及したインターネット。現在では、パソコンの企業や学校への普及、モバイルコンピュータや、Webテレビの登場等により、ユーザーのインターネットへのアクセス環境は飛躍的に向上している。

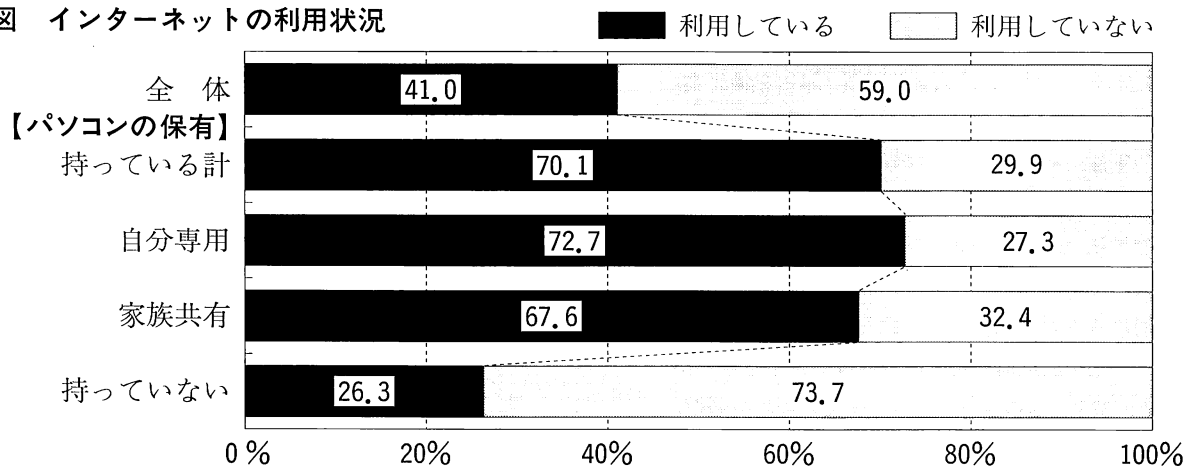
そこで今回は、将来的には重要な購買層であるポスト団塊ジュニア達が「インターネット」についてどう捉えているのか？、インターネットに対する意識を調べてみた。

調査結果

- インターネットの利用者は約4割。パソコン所有者の約7割が、パソコン非所有者でも4人に1人が利用している。
- インターネットを始めたきっかけは「おもしろそうだから」。また彼らの年齢にふさわしく「就職活動や卒業論文等の情報収集」が2番目に挙げられた。
- 1回当たりのアクセス時間は約1時間。主な利用目的はホームページの閲覧が7割強、電子メールの利用が約5割で、ホームページの種類では「趣味における情報収集」が最も多く利用されているようだ。
- インターネット非利用者の6割強が今後の利用を望んでいる。その理由は「今までにない相手とのコミュニケーションが広がるから」が、現利用者で1番多かった理由の「おもしろそう」を僅かに上回り、よりはっきりした目的でインターネットに取り組もうという意識が浮かびでた。
- 今後のインターネット利用意向者の目的は「趣味における情報収集」と「プライベートでの電子メールの利用」が多かった。

良い物を積極的に取り入れ、情報の使いこなし方が上手な現代の若者達のインターネット利用は約4割にとどまった。しかし、彼らの今後の利用意向は高い。彼らにとって、インターネットの利用を妨げている要因は「操作性の難しさ」と「コスト」。どうやら「簡単」で「安い」が今後のインターネット発展拡大のキーワードのようだ。

図 インターネットの利用状況



※日放(株)「NIPPON INFORMATION 平成10年3月1日」より

この「インターネットについての意識調査」は、18～22歳の男女200名を街頭で調査したもの。